

## 競 技 注 意 事 項

### 1 競技について

- (1) 本競技会は、2026 度公益財団法人日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。
- (2) トラックレースにおける不正スタートについて、TR. 16.8 による。
- (3) トラックレースで同着が出た場合、1000 分の 1 秒まで拡大し着差を確認する。
- (4) 競技者は 9mm 以下のオールウェザー用スパイクピンを使用すること。ただし、走高跳とやり投は 12mm までの使用を認める。
- (5) 競技用具は、競技場備えつけのものを使用するが、棒高跳用ポールは各校持参のものを使用する。投てき用具については各校持参のものを検査したうえで使用を許可する（個人が持ち込める投てき物は 2 個までとし、当該競技実施日の検査で合格したものに限り）。投てき用具の検査時間は各日とも 7 時 30 分から 9 時 00 分までとする。検査場所は競技場正面玄関前に設ける。
- (6) 予選組数が 8 組を超える種目における A 決勝、B 決勝進出については、予選 1 着の選手から記録順に上位 8 名が A 決勝に進出し、1 着の選手で 9 番目以降の選手と 2 着以降記録の良い上位の選手を合わせた 8 名が B 決勝進出となる。
- (7) 競技で使用する靴底の厚さは競技規則 TR5.2 による。ただし、サークルから行われる投てき種目（砲丸投、円盤投、ハンマー投）を除く。
- (8) アスリートビブスは、高体連配付のものをそのままの形で胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。  
3000m、5000m、3000m 障害物、5000m 競歩に出場する競技者は、招集所で配付するレーンナンバー標識（シール式）を胸部につけ競技すること。  
トラック競技出場者は全種目写真判定用の腰ナンバー標識を右腰やや後方につけること。腰ナンバー標識は高体連推奨のもの（黄色）をそのままの大きさで使用するか、横 18cm×縦 12cm より小さくないものを使用すること。リレー競技においては第 4 走者のみ腰ナンバー標識をつけること。腰ナンバー標識は 1～16 までは各学校で準備し、17 以降は招集所で配付するものを使用する。
- (9) 混成競技の最終種目においては、その種目までの総合得点の高い方から「1」「2」「3」と順位を示す特別ナンバーカード及び腰ナンバー標識を招集所で受領し、胸部と右腰に付けること。
- (10) リレー種目に出場するチームはオーダー用紙に必要事項を記入し、第 1 組の招集完了時刻の 1 時間前までに招集所の競技者係に 1 部提出すること。
- (11) 三段跳の踏切板は砂場まで男子 10m、女子 8m とする。
- (12) 棒高跳に出場する競技者は、支柱移動について現地の競技役員に申告すること。
- (13) 棒高跳の練習は、ゴムバーを使用して行う。
- (14) フィールド競技において多種目同時出場の手が試技を行う順序の際に不在でその試技時間が過ぎた場合はその試技はパス扱いとなる。
- (15) フィールド競技に出場の競技者は、画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。ただし、メインスタンド前で行われる八種競技の走幅跳を除く。

### 2 招集について

- (1) 招集所は 100m スタート地点脇（器具庫 1 内）に設ける。ただし、フィールド種目の招集については各競技場所で行う。招集開始・完了時刻は競技順序に記載のとおりである。
- (2) 混成競技の招集についても上記のとおりであるが、第 1 日目、第 2 日目ともに最初の種目は招集所で行う。
- (3) 招集は必ず競技者本人が点呼を受けること。ただし、他の種目に出場している場合にのみ当該校の代理人による点呼を認める。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技種目への出場を棄権したものと処理する。
- (4) 他種目を兼ねて同時に競技する競技者は、その種目の競技役員に申し出て競技に支障のないようにすること。

### 3 練習場について

- (1) 練習は競技場前及び投てき場を使用すること。投てき種目はターン練習及び助走練習のみとする。(投てき物の使用は禁止する)
- (2) 競技に支障のない場合に本競技場バックストレートの使用を認める。
- (3) 投てき練習は招集完了後に競技場所で行う練習のみとし、それ以外での練習は行わない。投てき練習は競技役員の指示に従い安全に留意して行うこと。

### 4 跳躍競技のバーの上げ方について

バーの上げ方は次のとおりとする。ただし、順位決定戦や県大会出場決定戦の場合は走高跳では2cm、棒高跳では5cmの上げ下げとする。(状況により変更の場合がある。)

走高跳	男子	1m55 練習	1m60－(5cm 刻み)－1m90－以降 3cm 刻み
	女子	1m25 練習	1m30－(5cm 刻み)－1m50－以降 3cm 刻み
混成競技 走高跳	男子	1m35 練習	1m40－(5cm 刻み)
	女子	1m15 練習	1m20－(5cm 刻み)
棒高跳	男子	三段階	2m00 (10 cm刻み)
	女子	二段階	1m80－(10cm刻み)

### 5 競歩種目における制限時間とフィールド競技の計測ラインについて

- (1) 競歩種目において制限時間を40分とする。ただし、県総体出場枠決定までは競技を継続する。
- (2) 走幅跳で男子5m30cm、女子4m00cmの計測ラインを設ける。  
(天候その他の状況により変更の場合がある。)

### 6 県総体出場枠

種目	100m～ 800m	1500m、 3000m、 5000m	ハードル、 障害物	競歩	リレー	フィールド	混成
男子	40	40	28	14	エントリー校	22	10
女子	32	23	20	14	エントリー校	18	10

県大会出場枠の最後の枠が同成績の場合、以下により決定する。

- ①トラック種目・混成競技では同成績者または代理人による抽選により決定する。
- ②走高跳・棒高跳では出場決定戦を行う。その他フィールド競技においては1回の試技による出場決定戦を行う。

### 7 救護体制について

大会期間中のけがについては、本競技場医務室にて医務員による応急手当のみ行う。その後の処置については各校の引率者の責任において対処すること。内科的症状については各校で対処すること。

### 8 その他

- (1) 短距離種目では競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)に沿って終了すること。
- (2) ホームストレート前の選手の通行は禁止とする。選手はフィニッシュ後にバックストレートを通行するか、フィニッシュ地点脇のゲートから競技場外に出てスタート地点に戻り、個人の荷物を取り速やかに退場すること。
- (3) スマートフォン・タブレット端末もしくは類似の機器を競技場内で使用・所持する行為は失格の対象となることがある。(TR6.3.2)
- (4) 競技結果の掲示は行わない。競技順序、招集時刻、出場レーン、試技順、競技結果、次のラウンドの番組編成などはアスリートランキングで確認すること。